



弘前アップル RC 週報

会長：荒田 俊治 幹事：坂本 大輔

2013/07/22

第 55 回例会

弘前アップル RC 事務所 〒036-8086 青森県弘前市田園 1-12-2 アイエーネットワーク(株)内



森本奈津子さん、ようこそ！！

講師紹介（関場会員）

今日は森本奈津子さんが徳島からほんとに来て下さいました。僕ら「なっちゃん」っていうのも呼んでいるのでそう呼ばせていただきます。僕が最初になっちゃんと会ったのは、2670 地区の、2670 地区というのは四国四県が一つの地区なんです、2006 年地区大会でした。その時の地区ガバナーが飯さんという方でとても良い方で、僕の大好きな尊敬するロータリアンですが、僕よりだいぶ年上の方ですけど、僕が RI 研修リーダーだった時のガバナーエレクトだったものですから一応私が教える立場になったので、それ以来私を恩師だ恩師だって言うてくれて、もうこっちはほんと恐縮しているわけですが、その飯さんの地

区大会が松山で行われてその時に本当は講師として呼ばれていなくて、ただ飯さんにお会いするために行ったらいつの間にかプログラムに僕の講演も入ってたんです。行ってから見てびっくり（会場笑）えー！しゃべるんだ一。と思って。ということで「世界があなたを待っている」題でしゃべらせてもらいました。僕が話す前になっちゃんが、まだ入っておそらく 1 年目か 2 年目だったと思いますが、その時にバングラディッシュに井戸の寄贈プログラムで彼女が先頭で行ってたんですが、その報告会をしていて僕はそれで聞いて「やあこんなにすごい人がいるんだなあ。」と思って見てた覚えがあって、それ以来それがきっかけになって色んな会合で一緒に飲んだりとかそんなことで友達、仲間になりました。うちのクラブの卓話に色々な僕の友人を何人かお呼びしてるんですけど、やっぱりなっちゃんの話ぜひ聞いてもらいたいなあ。



だけど遠いのでちょっと躊躇していました。でも「来ない？って来てくれたら嬉しいなって」書いたら「行きます！」と言ってくれて。ほんとはねぶたの時に来たらと思ったんだけど彼女が気を使ってくれて「ねぶたの頃はかえって皆さんお忙しいでしょうから私は7月に行かせていただきます」ということで今日来てもらいました。あとはなっちゃんの方から自分の紹介もあると思うので40分間フルにしゃべって下さい。よろしく願いいたします。(会場拍手)

卓話 森本奈津子さん

私は入会8年の中学生、やっと小学校は卒業しました。2005年の1月1日の入会で、まだ8年ですので、関場先生とかベテランの方を除いては皆さんとあまり変わりませんが、この8年はずーっと活動してきたのでものすごく早かったというか、駆け足できたように思います。この間、ずーっと良い出会いがあって良い人の話を聞いて良い奉仕との出会いがあって自分で決めることってあんまり何も無かったんです。良い奉仕に恵まれロータリーを楽しませていただいています。そのお話を今日しようと思うんですけども、ロータリー理論とかロータリーはこういうものですよとかそんなことはまだ語れる経験はなくて、自分の活動してきたことだけを皆さんにお伝えさせてもらって、「こういうふう楽しんでる人もいるんだな」みたいな感じでお聞き下さればと思います。標準語がしゃべれませんので阿波弁で聞き取りにくいところがあると思いますがよろしく願いいたします。

(スクリーンの写真が映し出されます)

表紙の写真は、福島のとときわ幼稚園の子供達です。

私は、2005年に入会しまして最初の活動は2006～2007年のバングラディッシュで、そのバングラディッシュでの活動のきっかけは、一番右に映っている米山奨学生のバングラディッシュからの留学生、シャリフ・ウディンさんとのご縁でした。シャリフさんは、徳島大学で学んでいらっしゃる、私達のクラブがサポートしていました。「何か困っていることはありますか？」と聞いたら、「日本は蛇口を開いたら飲み水が出てくる。でも私達の国では特にカントリーサイドでは飲み水が砒素に汚染されて砒素被害がものすごく出ている」って仰るんです。「じゃあ私達は何が出来ますか？」とお尋ねしたら、砒素って自然界にありましてヒラヤマから下りてきた砒素の鉱脈が近代化農業で沢山水を汲み上げたもので出てきたらしく、水脈をもうちょっと掘り下げて先端にフィルターをつけた井戸を設置すればヒ素がフリーになるっていうことで、砒素除去装置がついた管井戸を1年目100基贈ることから始まりました。先程慶先生から紹介がありました飯さんっていう方がガバナーで、飯さんの所に「シャリフさんのお国では、飲み水に困ってるんですけどうちのクラブだけだったら10基しか贈れませんので地区から支援してもらえないでしょうか？」と、お願いしたら飯さんはシャリフさんと英語で話し合い、彼の悲しみをたたえた目を見て、「お手伝いしよう」と決断して下さって、残りの90基の寄贈がかないました。

この写真が現場です。海拔0メートルのとなのでボーリングするというんじゃなくてどんどん掘り込んでいく簡易な井戸です。これが1年目シャリフさんが所属していたジャンハンギルノギル大学での寄贈の様子です。ここで、私たちは、貴重なシーンを目にしました。一番左に座ってる方が現地でコーディネートしてくれたジャンハンギルノギル大学のラーマン教授で、この人はイスラム教です。その隣にいらっしゃるのがうちの飯忠



悟ガバナーです。この方は敬虔なクリスチャンです。その横が私達の徳島南ロータリークラブの鳥居会長で神社の宮司さんをしておられ、ご自身がお神さんでした。一番右の人が地区の世界社会奉仕委員会の委員長をしていた四国八十八カ所の前神寺の住職さん、これってすごい貴重な写真だとおもいませんか？ イスラム教とキリスト教とご本人がお神様と住職さん、4つの宗教が揃ってる。(会場笑)

ロータリーが、言語も宗教も人種も何も関係なく活動できる団体だということを1年目で見たんです。これをみなさんにご紹介させていただきました。

この写真は、お母さんが赤ちゃんを抱いとるところです。この国では、何の為に子供を産むかといったら男の子は働き手として、女の子は子供を産むために小っちゃい時からお母さんになってしまう子が多く、こういう習慣が貧困は連鎖するって理由なのかなと思います。

次に2007年2008年の活動は、一年目米山奨学生のシャリフさんと活動してたんですけど、ダッカからの帰りに、空港で3280地区のロータリアンと会い「次年度は私達とやりませんか？」ということになり、ガジプール・ロータリークラブとかナランガンジ・ロータリークラブのロータリアンと活動することになりました。1年目の活動が地区内で大きく広報されたので、2年目は地区のたくさんの方から支援してくれて井戸を200基贈ることができました。この写真は、現地のロータリアンと30人程で井戸の掘削作業の視察をしてきた写真です。

そうこうしているうちに、2007年の11月に巨大サイクロン・シドルがバングラデシュを襲いました。こちらの写真は、視察に行った時の写真です。この子は家族を6人亡くしていて支援金を渡している写真です。沿岸

部に視察に行くにあたって、「私たちだけで行けば身ぐるみ剥がれてしまうかもしれん」という事で、軍が送って行ってくれました。沿岸部を視察して、視察し終わって帰国したら、クルナロータリークラブのバスター会長から、「サイクロンで、ラシュプール・セカンダリー・スクールが倒壊して子供達が学べなくなってるので支援してくれませんか？」というお話があり、倒壊した校舎の写真が送られてきました。この写真は、「完成イメージはこうです」と、向こうから完成イメージのパスも送られてきて(笑)部屋割りとトイレもあって～、「一階はサイクロンが発生した時に波が通り抜けるようになっていて、災害があった時には、地域の人がシェルターとして使えるようなものを作りたい、については5万ドル位かかるんですけども、1割を私達は出すので4万5千ドルを出してくれませんか？」ということから始まりました。この建築の資材は何を使うとか、4万5千ドル、5万ドルが高すぎないとか、そういったことも検討が必要でしたので2年に渡って2人のガバナー年度で実施してくれました。この写真は建設現場で、「一ヶ月に一回は必ず進捗報告を送ってくださいね」との約束でしたので、忠実に守って下さって、しっかりした造りになっていたと思います。この写真は完成間近の校舎の写真で、2010年の5月に当時の岡内紀雄ガバナーが視察に訪れてくれました。こちらの写真は、ラシュプールの子供達で、どこに行ってもたくさんの方の子供と会って、現地の子供達が喜ぶ姿を見てまた次の活動に移っていくってことの繰り返しです。この写真は、立てた直ぐのサインボードと、今現在のサインボードです。錆が出てとても傷んでいます。数枚の写真を送っていただきましたが、電気設備も壊れていて、子どもたちの表情も幾分暗く感じます。校舎も痛んでいるようですので、何らかの支援が必要かと考えていますが、この学校に行くのにももの



すごい遠く、タイまで7時間、トランジットが6時間位、タイからバンラディッシュまで二時間かかり、首都ダッカから沿岸部まではマイクロバスで10時間位かかるんですよ。なかなか見に行こうにも見に行けないので、一度視察に行ったら、後は現地のロータリアンにお任せしています。

次に私たちは、活動の軸足をタイに移すんですけども、3280地区の学校建築の視察の後、タイでのトランジットの6時間に、2500地区の笹谷芳夫先生が、「四国のロータリアンが活動の帰りにタイで待ち時間を過ぎよ」と、タイのバンコクサウス、のクリット・ウォンさんに知らせてくれて、初めてタイのロータリアンと会うんです。この後姿のおっちゃんが、以降カウンターパートとしてお付き合いするクリットさんです。3350地区は、タイとベトナムの混合の地区で、タイの水事情は、川の水と雨水を主に利用していて、日本の川を見慣れている私達にはどの川もどの川も泥の川で、（これで生活しよったら病気になるわなあ）と思うような汚い水を生活に使っています。この写真は、寄贈した水の浄化装置です。1年目に23基を寄贈しました。資金は、マッチンググラントというロータリー財団の補助金を使い、一緒に活動した地区は、ホストパートナーが3350地区、コ・ホストパートナーがチャラエン・パラキアアップサラブリロータリークラブ、国際パートナーが私たちの地区、コ・国際パートナーが北海道東部2500地区での活動でした。ロータリー財団の寄付って、うちの地区で毎年1800万円ほどの寄付額で、1ドル100円として、約18万ドルですよ。3年したら3年前の寄付が、「地区でお使いください」と、半分活動資金に返ってくるんです。その内のこの事業では1万ドルを使わせてもらいました。寄贈セレモニーには、亀井ガバナーのお伴で、徳島南ロータリークラブのメンバーも着いていき、ロータリーの楽しみ方として、奉仕を

した後に、ちょっと観光も・・・良いことと楽しみとの二本立ての、タイの3泊4日位の訪問でした。

活動していたら、タイに洪水が発生し、どんどんタイの市内にも洪水の水が押し寄せてきたっていう災害がご記憶にあると思います。それで100万本のペットボトルをタイのロータリアンが被災者に贈ろうというキャンペーンがあって、私たちの地区でも各クラブに呼びかけ、約2万2千ドルが集まりましたが、私たちの地区は締切に間に合わなくて、農業支援、水を送るパイプが壊れとったり、ハウスが壊れとったりするのを修復する支援に使ってもらいました。

その次の年度も、水浄化装置を16基寄贈しました。マッチンググラントの#75724というナンバーをもらいました。緑の服を着てるのが、カウンターパートのクリット・ウォンさん、その横が2500地区・北海道東部の小船井修一パストガバナーです。はい、笹谷芳夫先生も一緒に。その横が、3350地区のガバナーでその横がうちの地区の木村ガバナーです。木村ガバナーは、奥さんから肝臓をもらって生体肝移植をしていて、障害者1級の手帳を持ってらっしゃるんです。後日、木村ガバナーが「ガバナーは命がけっていうのはこの時知りました。普通の人でも、後進国の生水は飲まないように言われるのに、どこへ行っても浄水器から出てきた水をすすめられ、飲まないわけにはいかず、命がけでした」とおっしゃっておられました。（会場笑）この写真が設置した水の浄化装置です。アントン州のアユタヤとか、ロップリー、ナコンサワの地域の学校を視察し、こちらの写真は、タイでは珍しいイスラム教徒の学校で、木村ガバナーは、どこを訪問しても大歓迎を受け「何が何だかわからないまま魔法にかかったようなタイ訪問だった」との感想を述べられていました。これがタイ舞踊の踊り子さん達



で、タイの子供達がどこにいてももてなし
てくれて、楽しい思い出を残してくれました。

タイの今現在の活動は、サオリ 55GX 寄贈プ
ロジェクトっていう活動を実施してるんです
けども、これもマッチンググラントのロータ
リー財団の資金を使わせてもらってます。サ
オリ 55GX って、手織り織機なのですが、こ
の機械は日本製で寄贈の時には日本の技術者
がタイへ行って技術指導をしてくれるという
特典が付いていて、ハンディキャップを持っ
ている子供達が将来生計が立てることが出来
るように、障害者施設とか特別施設に寄贈し
ています。この活動は、マッチンググラント
#78609 のナンバーをもらって、ホストパー
トナーが、ロプリーロータリークラブ、コ・
ホストパートナーが、ラチャダピケRC、ア
ユタヤRC、国際パートナーが、私たちの
2670 地区と、今回初めてオーストラリアのサー
ファーズパラダイスRCさんと一緒に活動
しています。バンコクサウスRCは、今会員
さんが120名ほど2いらっしゃる国際的な
クラブで、たぶん国で言うと、30カ国位集ま
っているクラブなんです。バンコクサウスの
活動報告を見ていて、サーファーズパラダイ
スRCっていうクラブがあるっていうのを見
て、名前からしてもものすごい楽しそうなクラ
ブだったので、知り合いになっとったら、メ
ークアップとか行けたりするかなとか思って
「サーファーズパラダイスRCさんと一緒に
活動したいんですけど」と申し入れしたらバ
ンコクサウスRCさんが企画してくれてジョ
イントで活動しています

ここからは、国内の活動を紹介させてもらい
ます。この国内の最初の活動の前に東日本大
震災があり、世界社会奉仕の活動を先進国の
日本の国内ですということも考えてみたこ
ともなかったことだったんですけども、3
月11日に震災があり、その時に私地区の数人
から「なっちゃんの世界社会奉仕委員会です

ることは当分何もないな。海外どころでない
日本のことをせなあかん」って言われたんで
すけども、「世界って日本も含まれてるよな」
ってぼんやり思ってたんです。世界社会奉仕
って他国のロータリアンと一緒に活動するの
で、（誰か他国の人が日本の国内に資金を持
ってきてくれんかな）と考えていた時に、タ
イ3350地区のバンコクサウスRCのクリ
ット・ウォンさんが「あなた達の国の被害の
為にクラブで7千300ドル集めたのでどこに
振り込んだらいいですか？」って言ってきて
くれたんです。（これはもうぜひともパート
ナーになってもらいたい）って思った同時期
に、盛岡北ロータリークラブの田口絢子さん
が、ずっと震災以降、大槌町とか山田町に行
かれていて、30人位のメーリングリストを作
って「今日はどこそこ行ってきた、被災地は
こんなことで困るとる、被災地にはこんなニ
ーズがある」っていう情報を流されていまし
た。そのメーリングリストの端っこの方にも
私を入れてくれてたんです。そのメーリング
リストは錚々たるメンバーさんが入っていら
っしゃって、（私でええんですか？ここで一
緒に読ませていただいても）みたいなところで
情報を頂いていました。そして、大槌町の
学校のピアノが流されてピアノがないので、
ピアノを贈りたいって田口さんが流され、タ
イの7300ドルを使っただけの活動に入ってい
きました。「全国のロータリーに呼びかけて、
今は使っていない中古のピアノを寄贈しよう」
他、いろんな意見がありました。うちのガバ
ナーにお伝えすると「ピアノですか！」って
声が裏返るような声でした（会場笑）驚く
のも無理はないと思います。みんなが着るも
とか食べるもとかお父さんお母さんとかが
職がない時にピアノって！みたいな。でも田
口さんは「地域復興は子供達の歌声から」と
いうことを分かっていたらっしゃいました。資
金は、ロータリー財団の補助金を使って新品
のピアノを贈る事に決まりました。浜松ロー
タリークラブさんにヤマハの執行役員さんが



いらっしやり、ヤマハのピアノにロータリーの徽章をつけてくれました。マッチンググラントのナンバーは、#75418、ホストパートナーが盛岡北ロータリークラブさんで1000ドルの拠金、1000ドルで4万8530ドルの事業が出来たんで、きちんと企画を立てて報告が出来れば少ない手持ち資金でダイナミックな活動が出来るので、これは未来の夢計画来も一緒ですが、学ばないと効率のいい資金の使い方が出来ないんで、そこは学んでいって少ない手持ち資金でも沢山の人が喜んでもらえるような企画を立てたらいいなと思います。ピアノの寄贈先は鶴住居小学校、釜石東小学校、唐丹小学校と大槌小学校、大槌北小学校と大槌中学校です。この写真は、「地域の宝の子供達の清らかな歌声で震災復興の第一声を」というにふさわしい寄贈セレモニーに参加しました。この時、国際ロータリーのビデオクルーが、田中作次さんが国際協議会で使うビデオを作るのに来日されていました。楽曲は、BINGO、とんぼの歌、ビリーブと、大槌北小学校の校歌でした。ビリーブを歌っているシーンがロータリー.orgにアップされていましたので、短縮版を紹介させていただきます。(歌が流れる) この写真は吉里吉里小学校です。斜め45度に見上げるようなところにあるんですけど、ここも10mのところまで津波が迫っていたそうです。この写真は、吉里吉里小学校で間借りをさせてもらっている大槌北小学校の子供達です。そちらにいらっしやるのが田口パスト。(映像が流れる) 今の所に2500地区、北海道東部の増田ガバナーと2520地区の菅原ガバナーがいらっしやいましたが、菅原ガバナーが肩を震わせて泣いてるんです。「ロータリーは大の大人が大粒の涙を流せる類まれなる感動の場」という言葉を、江崎柳節パストガバナーが残されてるんですが、感動したワンシーンでした。

この活動が9月でしたが、この頃、「3月11日に一周忌を迎えるのに何かできないか」を

模索していた時期でもありました。それで引き続き田口さんのメールに「山田がものすごい被害に遭って、お亡くなりになった方の魂を鎮めるのとそれと今生きていらっしやる方が何か癒しになるものを作りたい」というようなことが書き込まれていました。この写真は、中標津ロータリークラブさんが30周年記念事業として建立した開陽台の幸せの鐘が、笹谷芳夫先生によってフェイスブックにアップされました。

透き通るような音色に魅せられて「この鐘の兄弟鐘を作ったらどうか」ということで話が進んでいったんです。この写真はメモリアルパークのパーズです。加えて、山田の駅舎に山田ロータリークラブが創立6年目に寄贈した41年間時を刻み続けてきた時計が山田駅が焼けたのと一緒に黒こげになったんですよ。この時計がガレキとして山田のゴミ置き場に移動されたんです。これをみた田口さんがいたたまれなくなって永久保存を模索することになったんです。資金の出所は国際パートナーに、私達の地区が短期交換の留学生で35年間マッチド地区としてお付き合いしているニュージャージー7470地区が2万3000ドル集めて送金したいと申し出てくれました。国内は、2520地区、2500地区、2770地区、それと2670地区と一緒に活動していくことになりました。この写真は行政の中心になった御蔵山なんですけども田口さんというパストガバナーと話しているのは山田ロータリークラブの会長さんで阿部さんとおっしゃいます。この方が商工会議所の会長さんをお務めになっていたこともあり、行政の中心になった御蔵山を提供してくれました。地鎮祭には田中作次会長エレクトも来て下さって、これがあの時計なんですけども直径が1.5m、前にガラスがないのに41年間ずっと時を刻む、セイコー社が「この時計は貴重な時計なんでぜひ保存して下さい」と言っていたいたそうなんです。



ここから寄贈の様子です。動画で見て下さい。
(映像が流れる。)

正面には、津波の際に押し寄せてきて大勢の町民の命を奪った山田湾が広がっています。現在はそこに八戸ロータリークラブのインターアクター達が花壇を作ってくれています。今年の3月11日にはAKBのメンバーが来て下さったらしく、今年の東北は天候が悪かったのでお伺いできなかったのですが、あとから思うと「行ったら良かった〜」って思いました。

今はね、福島に水の支援をしています。2520の事をしている間にも、福島の事が気がかりで、私はJRICに所属しているのですが、そこに平井義郎さんっていう寡黙な人がいらっやって、この人は福島中央ロータリークラブ所属で2530地区のロータリー財団の委員長をなさっています。自ら支援を求めるような人ではないので、こちらから「何かお困りのことはないですか？」としつこく聞いてたら「実は飲み水に不自由している人がいる」という事が分かって「水がないって!？」と、ずっと水の活動をしてきましたので日本で水に不自由している人がいるなんて考えもしなかったもので、ものすごい憤ったっていうか、私たちの先人が、水道事業と簡易水道事業とで日本を網羅して、日本では水道を捻ったら誰しも平等に安全な水を得ることが出来るはずだったのに「ええ〜〜!？」でした。四国は吉野川水系があり、充分な水がありますので木村ガバナーと相談し「水を贈ろう」という事になりました。水は高価ですし重いので、陸送費を含むと1万2千本を贈るには120万円若干自分でも「この活動で良いのか?もっと有効な奉仕活動があるのでは?」という気持ちがありましたので、いつも行き詰った時に相談する飯パストガバナーに、「ご寄付を水に流すような活動です、後には何も残りません」て相談したんです。飯さん

は「君は何を言っとるんだ。何も残す必要なんてないんだ。困っている人が必用としている物を贈ってあげればいいんだ」と背中を押してくれたんです。この写真は、四国剣山の水が10tトラックに積み込まれた写真です。第一弾、飯館村、川俣町、伊達市、田村市に寄贈しました。この様子は、福島民報、福島民友などに「徳島の名水で本県元気に」などと報道され評判が良かったんです。この写真は、第二弾、摩周湖の水が釧路から5月9日に出発した写真で「へこたれるな福島」というバナーを背に出発したそうです。四国が送って、それから摩周湖がすぐに送ってくれたんでどうしてかなって思っていたら、摩周湖の辺りって今NHKで‘八重の桜’してますけども、明治の政府になる時に、蝦夷開拓と北方警備を命じられて、会津から大勢派遣されたため、4代5代前は、福島から来るといって多くいらっやるらしいんです。なので「福島の為に何かできること」と、摩周湖の水を贈ってくれて、今年度はロータリー財団のスポンディングプランというプランを使って10月ごろ贈ってくれるそうです。この写真は、第三弾、長野からの支援の水を、常盤ロータリークラブの望月会長が常盤の保育所にお贈りしました。私達の共通の認識は「水は命の源」ということと「子供達の健康を守る」ということ。私は個人的には、子どもはなるべく原発から遠いところで暮らした方がいいと思うんですけども、飯館の子どもたちは、20ヶ所に分かれて避難しているんです。その避難所から毎日毎日飯野にある仮の学校に送り迎えしているんです。飯館の教育委員会の方に「どうして避難されているところの学校に通わせないんですか?」とお聞きすると、「そこで学校に行くようになると飯館の子供がいなくなる」と仰るんです。子どもはいろんな選択ができませんので、せめて安心して飲める水をどんどん贈ってあげたいなって思います。今熊本の岡村直前ガバナーに



「‘くまもんの水’を贈ってくれませんか」ってお声をおかけしているんです。(笑)この地区には、作守さんというご本業がダイバーのアクティブな女性ロータリアンがいらっちゃって、今年度、地区のローターアクトの方達と一緒に活動を模索してくれているそうです。キャラクターものなので分からないんですけど、くまもんは社会的にたためになる事をしてるんで、もしかしたら福島の子もたちに贈ってくれるかもわかりません。このような感じです。一と活動してきたんですけども、活動を振り返って思う事は、佐藤千壽先生の「間柄の美学」という言葉が好きで間柄を良くしていこう良くしていこうと努めていたら、次々と奉仕の活動の場が広がってきた感じです。何の為に動くのかっていったら「子供達の為に」活動しているような気がします。弘前アップルRCさんの4つのテスト、「本当にやりたいことかどうか」という一節、本当にやりたいと思わない事をできません。それから、活動を通じてたくさんのロータリアンと巡り合わせていただいでいて、現地の第一線で活動しているロータリアンに「奉仕の理想」を学ばせていただいています。

最後になんですけど、クラブで実践した「藍でエコ・地球に愛を」ってプロジェクトが、今までで一番思い出に残る楽しかった活動だったのでご紹介させていただきます。青森も藍は盛んですよね。徳島も藍が盛んで徳島藩の禄高は25万石だったのですが、藍が盛んだったので、実質的には50万石はあったらろうって言われるほどでした。けれども、現在は、安価な合成藍やインド藍に押され、土産品屋に置かれているだけで、産業としては全く成り立っていません。ですので、「藍ってもっと庶民的なものじゃないですか」ということを県内外に提唱しました。着れなくなった古着、黄色く黄ばんでしまった白のシャツやコーヒーで沁みのついたスカートなどを募って染め直し、作品として揃った頃にファッショ

ンショーをしようと企画したんです。モデルはもちろん自分たちなのですが、「クラブのメンバーが嫌じゃ嫌じゃファッションショーなんか恥ずかしい。モデルを雇って」と言われたのですが、「そんな足の短いモデルはおらん」言うて、会員さんに出てもらったんですけどね。観客がいて、スポットライトを浴びて音響が流れれば、みんなモデル気分になってきて(会場笑)終わってからみんなが「楽しかった〜〜〜って。」(映像が流れる)

使わなくなった洋服を染め直して新しく蘇らせたファッションショーが美馬市で開かれました。このファッションショーは、徳島南ロータリークラブが徳島県の伝統工芸の藍染めと環境には優しい古着の再利用を組み合わせ今回初めて行われました。会場となった美馬市のうだつの街並みの、築200年余りの藍商・佐直吉田家住宅には大勢の観客らが訪れました。男性女性合わせて18人がモデルを務め藍で染め直したジャケットやスカート、セーター、中にはモデル自ら工場に出向いて染めたものが伝統的な藍染めの風合いと全体的な洋服がマッチしていました。・・・

こんな活動で、これが一番楽しい活動でした。このファッションショーを観た後、美馬市の婦人会とか、学校の文化祭とかで生徒が企画したりして、あまりお金がかからなくて藍が楽しめるんじゃないかということが、ちょっとでも県内に広まったら良いなという活動でした。でこれで終わります。(会場拍手)



会長挨拶 荒田俊治 会長

森本さん、今日は貴重な色んなお話ありがとうございました。本当にめまぐるしいあちこちですね、すごいアクティブに活動なさってて本当に僕らアップルロータリーもですね、



きっちり腹をすえて楽しくやればよいなと思います。でそういうことと、とにかく始めなきゃ駄目なので、ただ雰囲気にながされるんじゃなくて本当に自分達が何をするのかってことを見極めて頑張っていきたいと思えます。その点においてすごく良いお話しでした。どうもありがとうございます。あとでまた色々とお話を聞きたいと思えますのでこの後懇親会で聞いていただけたらと思います。



出席報告

本日の出席数：12名
出席率 42.86%

メイクアップ 15名
修正出席率 96.43%



ニコニコ報告

森本奈津子様：初の青森です。皆様との出会いに感謝です。Yoshi先生、ありがとう。

中畑肇様：初のメイクアップです。よろしくお願ひ致します。

荒田俊治：明日は甲子園の県決勝。両チームが弘前です。勝負は時の運。どちらも頑張つてよい試合を期待します。

宇野純子：森本さんようこそ！今日、楽しみにしてきました。中畑さんお久しぶりでーす。今度一緒に飲もうね。

岡本薫：森本奈津子様、ようこそアップルRCへおいでくださいました。卓話を楽しみにしております。

菊池勲：森本さん、ようこそ弘前へ！！徳島に6年前、お遍路に行き、歩いていたのを思い出しております。その時、泊まった民宿で人生初の心霊体験を経験し、徳島のことは、一番印象に残っております。徳島に負けにくい弘前も良いまちですので、弘前を是非楽しんでください。"

木村由美：森本様、遠い徳島からようこそ弘前に来て頂きありがとうございます。一瞬で奈津子さんのファンになりました。

坂本大輔：森本さん、阿波の国からようこそいらっしやいました。ウォータープロジェクトや国内の活動の様子など貴重なお話ありがとうございました。あと、蜂須賀家御献上のお菓子もごちそうさまでした。"

関場慶博：奈っちゃん、遠路はるばる徳島からようこそ弘前へ。会えるのをとても楽しみにお待ちしておりますよ～

竹浪大輔：森本さん、ようこそ弘前へ！！おまつりも楽しいので、次回はおまつり期間中（あるいは豪雪時期）に来弘することをお勧めいたします"

三浦順子：森本様、卓話に感銘を受け、元気が出ました。遠いところおいでいただきありがとうございました。

山田順子：森本さん、中畑さん、ようこそARCへ。森本さんの生き生きとしたお話とてもステキでした。入会8年でこれだけたくさんのお話を成し遂げていらして、感動しました。遠いところからありがとうございました。"

山本周平：森本さんようこそ！阿波弁がとてもほっとして聞いていました（元関西の大学）



先日マッチンググラントのことを知りましたが、実際にタイで役に立つ話を聞いて、改めてロータリーの国際奉仕性を感じました。森本さんのように明るく元気な活躍するロータリアンに憧れます。今日はありがとうございました。"

吉澤葉子：森本様の卓話楽しみにして来ました。やっと3日前にギブスはずれました（ホッ！）これから又がんばります！皆様長男のお祝いありがとうございます。"

@@今後の予定@@

■例会予定

7月29日（月）休会

8月5日（月）外部卓話 派遣学生
澁谷菜佳さん

8月12日（月）内部卓話 笹川皇人会員

8月19日（月）E例会 「会員増強」

（担当：会員増強維持委員会）

8月24日（土）15時 親睦ボーリング大会
（受入学生のライン君が参加します。ご家族お誘いあわせてご参加下さい）

場所：アサヒボール プレイ代 1200円
ボーリングのあと懇親会を予定しています。

8月26日（月）内部卓話 竹浪大輔会員

■地区内外行事

8月10日（土）青少年交換派遣学生壮行会並びにオリエンテーション（八戸市）

10月5-6日 地区大会（八戸市）